

<今日の説教のポイント フィリピの信徒への手紙3章12～16節 >

①元旦の朝、聖書の神様を覚えて礼拝に集える恵みを思う

各人の上にもまた世界全体でも色々なことがあった昨年です。しかし今、新しい年の元旦に、こうして聖書の神様を覚えて礼拝に集える恵みを思います。それは、パウロが今日の箇所ですぐ前で、「わたしの主イエス・キリストを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失と見えています。」(3:8)と言っているのと同じです。すなわち、私たちの人生に主イエス・キリストの神様が入ったことの素晴らしさです！

「いのちが一番大切だと思っていたころ、生きるのが苦しかった。いのちより大切なものがあると知った日、生きているのが嬉しかった。」(星野富弘)。新たな年の始めに、この神様を思いながら生きられる素晴らしさを改めて覚え直したいと思います。

②前向きに生きる。しかし、その「前」とはどっち？

私たちは今年も前向きに生きて行きましょう。しかし、パウロは次のように言っています。「後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞与(キリスト・イエスにあって上へと召されるという神の褒美)を得るために、目標を目指してひたすら走ることです」(13-14)。また、「彼らは…この世のことしか考えていません。しかし、わたしたちの本国は天にあります」(19-20)。「前向き」とは、神様とは全然関係なく立てた目標達成を目指してただ自分で頑張る生きようとする「前向き」ではないのです。むしろ、キリストにあって(in Christ)神様に赦され愛されながら今を生きていく「神様の方を向いた前向き」です。キリスト者もそれぞれこの世的な目標や目的を持って生きます。しかし、その目標が神様の御旨に適った形で追い求められている時に「主の平和(平安)」が与えられるのです(4:4-9！ 本当の平安は主において(in)生きる中で得られる)。

③今、信仰者に与えられた新しい世界の始まりの場、教会にいる恵み！

教会は、主の恵みに出会えた者たちが今度は自分たちがそれにお応えして生きて行こうとする時に、神様が与えて下さった新しい世界の始まりの場です。世の中で何があろうと戻って来れる場所、ここを持っていること、この恵みを今考えながら今年の歩みを始めたいと思います。